（様式１）

令和6年度　学校評価結果報告書（高等学校用）

学校整理番号	40
学 校 名	青森県立青森商業高等学校
の課程	全日制

（1）学校教育目標	人間尊重の精神を身につけ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成するとともに、商業教育を通して地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。
（2）現状と課題	学年・分掌・教科等すべての教育活動を通じて基本的生活習慣及び家庭学習の習慣を身につけさせる必要がある。 商業高校としての特色ある教育活動（起業体験プログラムへの取り組み、台北市立士林高級商業職業学校との教育交流活動）に向けて、全教職員の共通理解による実践活動を通し、実学としての商業教育の充実・発展に努めながら、学習活動と部活動を両立させ、充実した高校生活を送ることで「就職にも進学にも強い高校」を目指す。
（3）重点目標	1　教員の専門性・指導力・授業力の向上 2　生徒指導・特別指導・道徳教育等の充実 3　進路指導の充実 4　キャリア教育と体験的学習の充実 5　保護者・地域から信頼される学校づくり 6　学校における働き方改革への対応
（4）結果の公表	ＰＴＡ総会及び学年部会で公表する。また、アンケート集計結果をホームページで公表するとともに保護者へ送付する。

自己評価実施日	令和7年2月4日（火）
学校関係者評価実施日	令和7年2月19日（ 水 ）

（9）－イ　学校関係者評価委員会の構成
学校評議員４名（地域住民１名を含む） 学校関係者評価委員長（いじめ防止専門委員を兼ねる）

自己評価					学校関係者評価	（10）次年度への課題と改善策
番号	（5）評価項目	（6）具体的方策	（7）具体的方策による目標の達成状況	（8）目標の達成度	（9）－ア　学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	（ア）授業の充実 （イ）研修の充実 （ウ）高大連携の推進	（ア）基礎・基本の徹底と進学や就職に必要な学力を習得させるために「生徒がわかる授業」、「丁寧な授業」、「言語活動を充実させた授業」、「主体的・対話的で深い学びの実践に向けた授業改善」等を実現する。 （イ）校内研修の企画・運営、校内外の研修へ積極的に参加し、授業力向上を目指す。 （ウ）県内の大学や協定を締結している大学との教育資源を活用した実践的な取り組みを行い、生徒の専門性の向上を図る。	（ア）習熟度別授業、チームティーチング、ICTを活用した効果的な教材の提示や情報共有等により、生徒の理解度に応じた「生徒がわかる授業」を実践できた （イ）年３回の校内研修を実施し、教職員の指導力向上を図った。また、互見授業期間を設け、授業改善の一助とした。 （ウ）課題研究の授業を中心に青森大学や青森中央学院大学との高大連携を推進し、様々な活動を通じて専門性をより深化できた。	B	・今年度も資格取得は、頑張っていると評価できる。自分の子供も資格取得のために頑張っており、商業高校入学して良かったと言える。 ・公務員合格に関しては、今年度税務職員が出ており、素晴らしいところである。税務は商業教育に近いところにあり、今後も期待している。 ・最近、普通科傾向にあり、商業科と普通科の境目が分かりにくいこともあり、違いや特色が出るような取り組みを進めて欲しい。	・1学年の授業では、特に簿記や情報処理について、基礎・基本に時間をかける授業を実践していきたい。 ・情報処理科では、今年度に引き続きDXハイスクール事業を推進し、ICT機器の積極的な利用、また教員研修の充実を図るとともに、生成AIを活用した授業を展開し、生徒にAIをビジネスとしてどのように生かすか体験させる。
2	（ア）挨拶ができ、服装・容儀が清潔で社会マナーを身につけた生徒の育成 （イ）倫理観の醸成といじめや問題行動の防止 （ウ）何事にも積極的にチャレンジする精神と仲間を思いやる気持ちの涵養 （エ）生徒理解に基づいた教育相談、ケア体制の充実 （オ）道徳教育の推進と指導体制の充実	（ア）毎日の登校指導、定期的な服装指導から挨拶の励行、時間の厳守、端正な容儀の習慣化を促進する。 （イ）いじめ防止アンケートや面談等を通じて、いじめや問題行動等の早期発見・早期対応を行う。 （ウ）行事や部活動に主体的に取り組むことで、主体性と共同性を涵養する。 （エ）問題を抱える生徒の情報を教職員で共有し、関係機関と連絡を取り、適切な対応をする。 （オ）道徳教育推進教師を中心に全教員が協力して道徳教育の推進に努める。	（ア）生徒指導部を中心にした毎日の登校指導により、遅刻者数も減少している。また定期的な服装頭髪指導から、容儀も整っている。 （イ）年3回のいじめ防止アンケートと面談、長期休業明けの見守り週間の実施により、いじめの未然防止と早期発見に取り組んだ。 （ウ）起業体験プログラム等の大きな行事に主体的・協働的に取り組みその成功に貢献することで、達成感や協力することの大切さを経験させることができた。 （エ）児童相談所等に情報提供し、適切に対応できた。また、問題が大きくなる前に教員間で情報共有し、対応を検討実行することができた。 （オ）各教科の授業内で道徳教育を適宜実施した。	B	・日頃の生徒観察やアンケート調査等の対応が功を奏しており、今後とも継続指導対策をお願いしたい。また、生徒をよく見てもらい、生徒が楽しく学校生活を過ごせるようにしていただきたい。 ・道徳教育について、小学校・中学校では、教材研究や指導技術の不足が課題となったこともあり、指導体制の充実を推進していただきたい。	・現段階でいじめがなくても、ちょっとしたきっかけでいじめにつながることがあるので、日頃から生徒の様子を注視し、変化に気づく体制を整えていくためにも「見守り週間」などを有効に活用していく。 ・スクールミッションの達成のために、地域社会への貢献を果たす生徒の育成に努め、道徳観の醸成を図る必要がある。
3	（ア）社会的・職業的自立ができるよう3年間を見通した進路指導計画の立案と、望ましい勤労観や職業感の育成 （イ）生徒が持つ可能性、能力、価値観を自ら考え、発見させるための様々な体験活動の重視 （ウ）「課題研究」、「起業体験プログラム」、「台北市立士林高級商業職業学校との教育交流活動」などを活用した生徒のスキルアップ	（ア）進路ガイダンスや進路講話を通じ、自分の特性を早期に見つけさせ、自己の進路に対する意識の向上を図る。 （イ）インターンシップの充実と深化を図り、自己理解と望ましい勤労観を育成し、社会人基礎力を意識した教育を実践する。 （ウ）関連企業との交渉や販売実習、交流事業など生徒に通常の授業では体験することができない活躍の場を供与することで、自己の可能性を発見・認識する。	（ア）就職希望者、進学希望者95.9%の進路が決定した。就職求人数は増加傾向にあり選択の幅が多かったが、進路指導部の教員や就職支援員の指導により生徒の希望する就職先を適切に選択できた。 （イ）生徒各自に計画性を持たせるとともに、事前・事後の指導も丁寧に行うことで、生徒が自らの将来像を意識し、勤労観についても考える機会を与えることができた。 （ウ）コンビニエンスストアや店舗での販売実習、青商祭での起業体験プログラムや台湾との交流事業等、授業以外の体験を通じて、生徒は自分の持つ能力に気づくとともに、新たな可能性を探ることができた。	B	・進路指導は多くの生徒が志望を達成していることを考えるとうまく行われている。 ・生徒のそれぞれの進路志望に対応してもらい、結果に現れていることは評価できる。特に四年制大学への進学が増えていることは、今後入学してくる生徒や志望する生徒に良い影響を及ぼすと感じる。	・勤労観や職業観の育成のため、キャリア教育推進に全教職員が保護者や地域、求人先とよく連携する。 ・学校で行う授業や活動が、どのように進路志望達成につながるかを、生徒・保護者へ十分に説明し、情報共有に努める。 ・「課題研究」での体験や、「起業体験プログラム」への取り組みが進路選択につながるようにさらに内容や方法を磨き上げる。
4	（ア）保護者・地域から信頼される学校づくり （イ）学校における働き方改革への対応	（ア）挨拶運動、夏祭り巡回指導、研修旅行等を通じ、家庭と学校が協力・連携して生徒の安全で健全な育成に努める。 （イ）中学生の一日体験入学や、部活動の体験入部等を通じて、本校の魅力を発信する。 （ウ）8月13・14・15・16日を閉庁日とし、校内立入と全部活動を禁止することにより、休暇取得を促す。また、 部活動指導計画内に、原則週１日以上の休養日を確保しながら年間104日程度の休養日を設定する。	（ア）安心・安全な環境の中で、体育祭、文化祭などの学校行事を実施することができ、生徒の活動を発信することができた。他の行事でも広報委員が広報誌用の写真撮影を行うなど、可能な範囲で活動した。 （イ）42校348名の中学生が一日体験入学に参加した。実施後のアンケート結果から、好評であったと評価している。 （ウ）閉庁日前後に年休を取得するなどして、長期間の休養を取得することができた。また、教職員は年平均15日の年休を取得し、心身のリフレッシュを行い、職務への活力とした。	B	・生徒、教員、保護者のアンケートの評価が高いことから、教育活動の成果が現れている。 ・ボランティア活動の積極的参加については、個人での活動は消極的な傾向にあり、学校が意義の説明、活動する場のセッティングをすると活動しやすくなる。	・今年度行われた校内外の行事を総括し、今後も学科の特徴や特色を生かせる場をできるだけ多く生徒に提供し、成功体験を積ませ達成感を味わうことで学校の活性化を図る。また、外部に情報を発信し、中学生から選ばれる魅力ある学校であることをアピールしていく。 ・今後も、「学校における働き方改革」を推進し、年休の積極的な取得を促し、心身のリフレッシュとともに、教職員の健康管理に努める。

（11）総括	安心で安全な環境の中で、各種の学校行事を実施することができた。そのことにより、生徒が主体的・協働的に活動し、自分たちの可能性を広げつつ、外部に本校や商業教育の魅力を発信するとともに、日頃の授業や他の教育活動に弾みをつけることができた。また、教職員間で様々な場面で、意見交換・情報共有の機会を設け、ICT機器の導入、活用の工夫等や生徒の状況の把握などに役立てた。今後、生徒の体験的学習やPTA活動、外部講師を招いての講演・講習等において、生徒に多くの成果を供与できる工夫を重ね、学校教育目標を高い次元で実現できるように、全教職員一丸となって課題に向き合っていきたい。